

花巻ファーマー

好きな自然に囲まれながらリンゴ栽培に奮闘



菅野 裕也 さん
(東和町鷹巣堂 41歳)

実りの秋。リンゴの収穫時期を迎え、せっせと収穫作業を進めている菅野裕也さんは、東和でリンゴと水稲を栽培する花巻ファーマーです。菅野さんは、3年前に奥様の実家で営んでいる農業を継ぎました。「子どもたちとゆっくり過ごす時間が欲しかったのと、好きな自然に囲まれた環境で仕事をしたい」との思いから、就農を決意。農業初心者だったため、父親から農作業のノウハウを教わったり、周りの農家さんと情報共有したりしながら日々勉強を重ねてきました。



菅野さんが栽培した甘酸っぱい香りが漂う「ふじ」

ています。「手入れは大変ですが、土壌硬化を防ぐために手をかけて育てています。リンゴを栽培する上で土づくりが大事になってきますね」と、こだわりを語っていました。「1年通してリンゴの成長過程を見れることに喜びを感じます」と明るい笑顔をみせる菅野さん。今年は低温による凍霜害の影響でリンゴに被害が出ているので、その対策を考えながらおいしいリンゴを届けたい」と意欲を見せていました。

環境カウンセラーは、市民や事業者などの環境保全活動に対するカウンセリング(助言)を行う人材として環境省に登録されている人々です。本市に拠点を置く岩手県環境カウンセラー協議会には県内の環境カウンセラー15人が所属。これまで仕事やボランティアで培った経験や専門的知識を生かし、エコ視点で多くの人の活動をサポートしています。



1 ウェブ会議システム「Zoom」の操作方法を学ぶ様子



2 会員の皆さん(一番左:林理事長)

の操作研修を実施。理事長の林さんは「時代に合わせたスキルを身につけ、山や川など自然と共生できる住みよい町をつくる活動を続けたい」と話していました。

住みよい町の環境づくりを推進
NPO法人 岩手県環境カウンセラー協議会

広げよう
活動の輪

市民活動団体紹介

【問い合わせ】
NPO法人岩手県環境
カウンセラー協議会
理事長 林 俊春さん
(☎0198-24-9627)

健康コラム

子育てを、スマホに頼っていませんか？

子育ての悩みを検索したり、子どもをあやすときに使ったり…気が付くと、見る、見せる時間が長くなってしまふスマホ。その時間を子どもと向き合う時間に変えてみましょう。

●親子で外遊びを！

子どもにとって外遊びはとても大切です。脳や体の発達を促すことはもちろん、太陽の光を浴びながら外遊びをすることで、視力の低下を防ぐことにも効果があると注目されています。心地よい風や日の光、花や虫など五感を刺激するものとの出会いはスマホ以上に魅力的です。

●コミュニケーションを大切に！

泣き止まないときなど、ついスマホに頼ってしまうこともありますよね。しかし、子どもはお母さんや家族とのコミュニケーションを繰り返す中で自分の感情をコントロールできるようになっていきます。ぜひ、お子さんの気持ちに寄り添い、気持ちを切り替える手助けをしてあげましょう。

●何か悩んだら信頼できる人に相談を！

育児の悩みは十人十色です。スマホではなく、信頼できる人に相談しましょう。話を聞いてもらい、受けとめてもらうだけでホッと安心し、気持ちも楽になりますよ。



子どもの成長には、遊びを通して実体験やふれあい、家族の笑顔が欠かせません。ぜひ意識してスマホを手離してみましょう。

【問い合わせ】健康づくり課(☎23-3121)

市民生活コーナー

成年年齢引き下げによる
トラブルに注意！

■どんな相談があるの？

○SNSで知り合った人から儲かる副業ビジネスとしてネットワークビジネスを紹介された。高額な利用料を支払い契約したが、仕組みがよく分からず解約を申し出たら「既に契約成立しているのだから料金は返金しない」と言われ困っている

■注意することは？

○令和4年4月1日から成年年齢が18歳に引き下げられます。未成年者は「未成年者取消権」で保護されていますが、成年に達すると保護から外れ自ら契約したものに責任を取る必要があります。そんな若者を狙う悪

れた。お金がないため断つたら、自分の意志で契約できることを理由に消費者金融で借金するか高額なローンを含むよう勧められた

■問い合わせ・申し込み

○新館市民生活総合相談センター(☎41-3550)へ

質業者がいます。○未成年のうちから契約に関する知識やルールを学ぶことが大切です。本心に必要な契約かどうか考える力を身に付けることでトラブル防止になります。なお、成年年齢は18歳になっても、飲酒や喫煙、競馬などの公営競技に関する年齢は変わらず20歳です。

地域おこし協力隊が退任します

平成30年12月に着任した佐藤真衣子隊員が、11月30日付で退任します。退任する佐藤隊員にこれまでの活動の振り返りを聞きました。

あっという間の3年間ではありましたが、協力隊になっていなければできなかったであろう、たくさんを経験し、長い冒険のようでもありました。

ブドウ農家の後継ぎ候補として移住するも、ブドウ栽培に限らず、畑でこっそりヒツジを飼い始めてみたり、畑仕事をしていると見せかけて絵を描いていた、他の協力隊の皆さんと比べて、自由奔放な協力隊だったかもしれません。

突如猛威を振るい出した新型コロナウイルス感染症によって、活動が十分にできず不完全燃焼でした。町の人たちと本気で意見を言い合ったこともありましたが、でも、私にとって秘密基地のような存在の大迫町に、そして大迫町の人たちに、自分はいつも守られているなと感じていました。

地域おこし協力隊という肩書のもと、太陽のような存在となって町を照らすことはできなかったかもしれません。それでも誰かのろうそくの明かりとなっていたのなら幸いです。

移住当初、「毎日笑って過ごすことが目標」と言いましたが、毎日楽しかったです。ありがとうございました。そしてこれからも大迫町にいますので、よろしくお願いします。



①__退任する佐藤隊員 ②__ブドウ畑を一緒に管理してくれたヒツジのあんちゃん(左)とチロルちゃん(右) ③__畑で収穫した採れたてのブドウ